

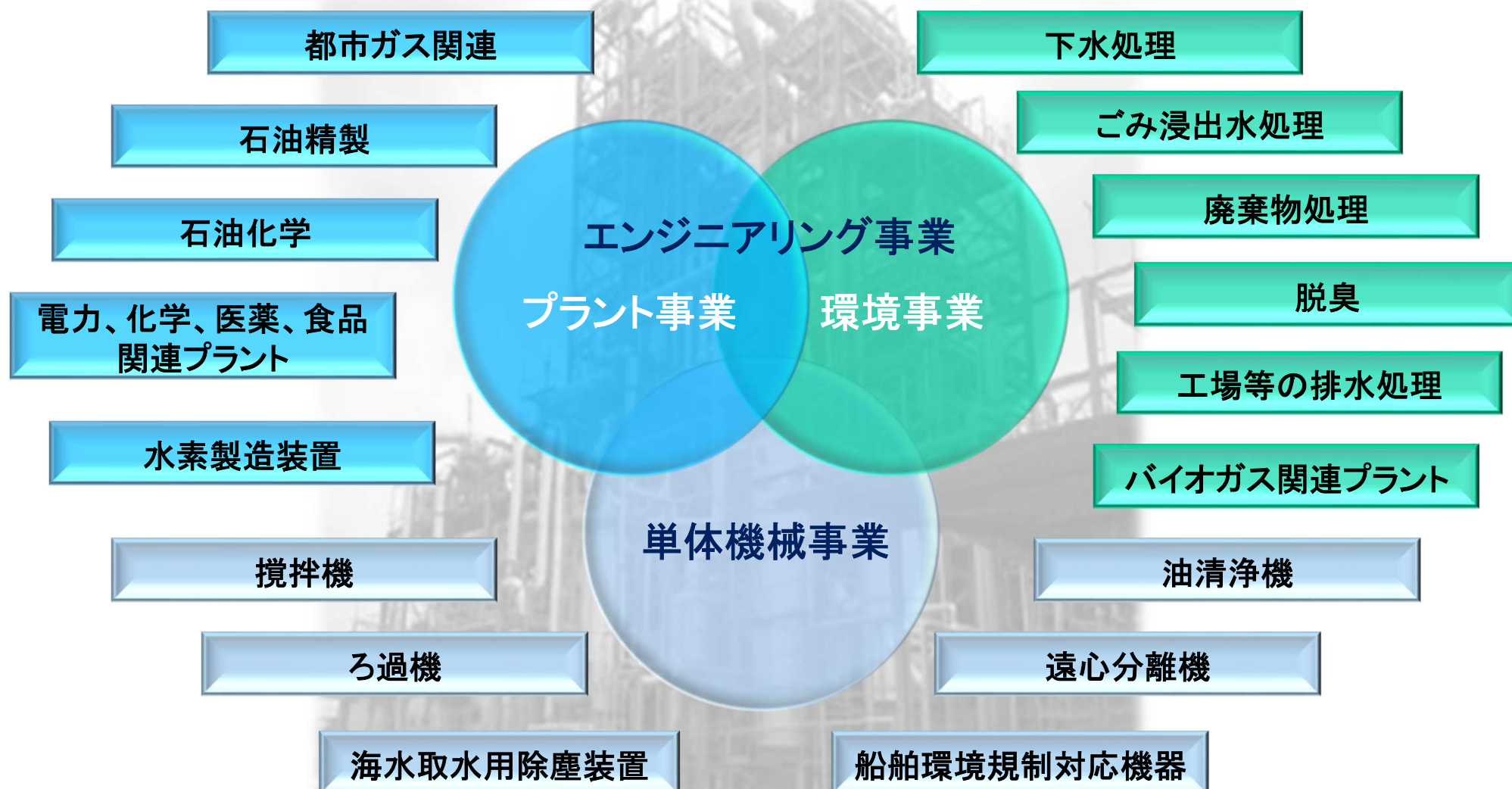
2022年3月期第2四半期 決算説明会

2021年12月7日
証券コード 6331

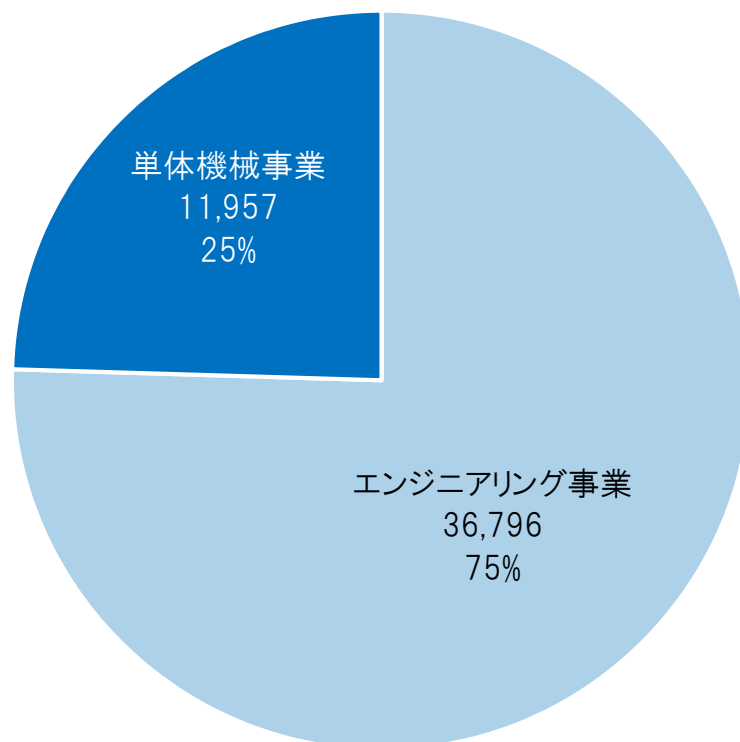
I .事業概況	P.2
II .決算実績	P.9
III .業績予想	P.17
IV .中期経営計画 ～取り組み状況～	P.22
V .三菱化工機グループ2050経営ビジョン	p.31
Appendix1.過去5年間の業績推移	P.34
Appendix2.会社概要	P.39
Appendix3.ESGマネジメント SDGsの取り組み	P.47
Appendix4.中期経営計画の概要	P.49

I .事業概況

■ 当社はプラント・環境設備の建設・エンジニアリングと各種単体機械の製作を軸に事業を展開



セグメント別売上高・構成比率



セグメント別売上高・構成比率

(2021.3月期 単位：百万円)

当社の特徴

■ コア技術は「固体・液体・気体の分離」

<トップシェア>

- ① 三菱セルフジェクター（船用油清浄機）
- ② オンサイト型水素ステーション建設
- ③ HyGeia-A 水素ステーション向け高効率小型水素製造装置

■ SDGsと製品・技術開発を結び付けた事業活動を進めています^{*1}

- ① クリーンエネルギー技術の強化
 - ・ 汚泥資源化技術の開発
 - ・ 下水バイオガス原料による水素製造
- ② 環境負荷低減
 - ・ EGR関連装置、SOxスクラバーの製品販売

^{*1}： SDGsの取り組みはAppendix.3を参照

気候変動への対処として 脱炭素社会の実現に向けた動きが世界的に加速

- 「気候変動サミット」において、2030年に温室効果ガスの排出を2013年度比で46%削減を目標とすることを表明(2021年4月)
- 2050年までの脱炭素社会実現の方針を明記した、「改正地球温暖化対策推進法」が成立(2021年5月)
- 新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）がグリーンイノベーション基金事業の第1号案件として、水素に関する11テーマの実証研究事業に着手（2021年8月）
- 第6次エネルギー基本計画が閣議決定
2030年の電源構成において、再生可能エネルギーが36～38%（従来計画：22～24%）と想定され、また初めて水素・アンモニア1%を位置付け（2021年10月）
- COP26開催
パリ協定では「気温上昇を2度未満に保ち、1.5度は努力目標」とされていたが、成果文書に「世界の平均気温の上昇を1.5度に抑える努力を追求することを決意する」と明記された（2021年11月）

当社の成長分野の見通しおよびこれまでの取り組み

- 脱炭素社会の実現に向けたサステナブル投資・サステナビリティ経営を推進する企業の増加で、グリーンエネルギーのニーズが高まり、関連領域の市場拡大が進む
- 市場の拡大に伴い、水素のCO₂フリー化やCO₂有効利用を目指した技術開発が進み、多くのプレーヤーが参入、競争環境の激化が進む

2012年度

- ・ 水素ST用小型水素製造装置  開発、販売開始
- ・ 日本初のPFI方式による生ごみのメタン発酵施設稼働
(稚内市バイオエネルギーセンター)



2014年度

- ・ 下水バイオガス原料水素STの実証事業開始
(福岡市水素リーダー都市プロジェクト)



2020年度

- ・ 再生可能エネルギーを利用した水電解による水素製造実証完了
- ・ 高効率消化システムによる地産地消エネルギー活用技術の実証完了
(唐津市浄水センター)
- ・ 吸蔵合金水素圧縮機の開発・実証試験実施
- ・ 都市型藻類バイオマス生産用フォトバイオリアクターの実証試験を開始



2021年度

- ・ NEDO「バイオジェット燃料生産技術開発事業」再委託研究でヌッチェフィルター型抽出装置受注
- ・ 汚泥可溶化装置を初受注 (唐津市浄水センター)



業界環境



プラント

- 新型コロナウイルスの影響で新規計画案件の見送り、凍結はあるものの、国内ではIT関連やSDGs関連を中心に戦略的新規投資計画の検討が開始され始め回復基調
海外では台湾を中心に半導体サプライチェーンの上流強化を目指し、積極的な設備投資需要もみられる



水素

- 新型コロナウイルスによる低迷から復調してきており、特に半導体業界を中心に需要は底堅く推移
脱炭素社会に向け水素に対する期待が高まっていると同時に、水素のCO₂フリー化が求められている
更なる技術革新（製造、貯蔵、運搬）の進展による需要拡大に期待



環境

- 主力の下水処理分野は、発注スケジュールが第3四半期に集中しているものの発注量は堅調に推移
廃棄物分野においては最終処分場向け浸出水処理施設の需要が堅調に推移
CO₂削減に関連した引合いも増加傾向にあり、成長市場として期待される



機械

- 造船・海運業界においても、脱炭素社会の実現に向け、アンモニアや水素などゼロカーボン燃料船の技術開発が活発化
- 船舶環境規制対応機器のNOx規制対応では、造船市況が回復しつつあり、米国の規制海域（ECA）を航行する船舶向けの需要が堅調

トピックス

事業関連

- 半導体生産において世界的に大きなシェアを持ち、設備投資が活発な台湾での受注拡大を目指し、台湾支店開設
現地スタッフの活用により多様化する依頼案件に対応し、更なる顧客層の拡大を図る
- 水素・エネルギー分野で秋開催は初となる国際水素・燃料電池展に出展
当社水素事業の主力製品である水素製造装置「HyGeia」シリーズをはじめ、脱炭素、水素社会実現に向けた当社技術を紹介
- オンサイト水素製造装置HyGeiaシリーズは、第2四半期までに水素ステーション用、工業用向けに4基出荷（2021年度中には合計5基出荷予定）
- B-DASH唐津にて実証した「汚泥可溶化技術」に関して、2021年10月に唐津市より汚泥可溶化装置を初受注
- NOx規制対応EGRエンジンシステム用排水処理装置は、LNGやLPG燃料焚きエンジンに対応する新たな型式の設計完了

経営方針関連等

- 東京証券取引所新市場区分への移行において「プライム市場」選択を決定
- 三菱化工機グループ2050経営ビジョンの公表（2021/11/24）
- 本社事務所を開設（2021年11月）し、本社機能を移転（2021年11月～2022年1月）

Ⅱ.決算実績

連結損益計算書

■ 営業利益は、販売費及び一般管理費が増加したが、売上原価率の改善により増加

(単位：百万円)

	21/3月期2Q		22/3月期2Q		22/3月期2Q		前年同期比	
	実績	構成比	予想 2021.7時点	構成比	実績	構成比	増減額	増減率
売上高	21,207	-	23,500	-	21,399	-	191	0.9%
売上原価	17,543	82.7%	-	-	17,351	81.1%	-191	-1.1%
販売費及び一般管理費	2,485	11.7%	-	-	2,680	12.5%	194	7.8%
営業利益	1,178	5.6%	1,150	4.9%	1,367	6.4%	188	16.0%
経常利益	1,271	6.0%	1,200	5.1%	1,507	7.0%	236	18.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	906	4.3%	950	4.0%	1,173	5.5%	266	29.4%
1株当たり純利益	119.45 円	-	125.15 円	-	154.43 円	-	34.98 円	-

主な販売管理費

■ 見積設計費の増加、人件費の増加等により前年同期比7.8%増

(単位：百万円)

	21/3月期2Q		22/3月期2Q		前年同期比	
	実績	売上比	実績	売上比	増減額	増減率
給与・賞与	987	4.7%	1,041	4.9%	54	5.5%
見積設計費	383	1.8%	509	2.4%	126	32.9%
減価償却費	47	0.2%	43	0.2%	-3	-8.2%
研究開発費	126	0.6%	101	0.5%	-25	-20.0%
その他	940	4.4%	984	4.6%	43	4.6%
合計	2,485	11.7%	2,680	12.5%	194	7.8%

セグメント別の状況①

① エンジニアリング事業

- 受注高は、国内外の化学関連プラント、下水関連で増加し前年同期比89.9%増
- 売上高は、期初の受注残高を順調に消化し前年同期比3.0%増
- セグメント利益は、原価率の改善により前年同期比19.7%増

(単位：百万円)

	21/3月期2Q	22/3月期2Q	前年同期比	
	実績	実績	増減額	増減率
受注高	7,823	14,860	7,036	89.9%
売上高	15,361	15,816	454	3.0%
セグメント利益	670	803	132	19.7%
受注残高	43,953	35,048	-8,904	-20.3%

セグメント別の状況②

②単体機械事業

- 受注高は、主力の油清浄機、船舶環境規制対応機器で増加し前年同期比28.0%増
- 売上高は、前年の受注高の減少を反映し前年同期比4.5%減
- セグメント利益は、原価率の改善により前年同期比11.1%増

(単位：百万円)

	21/3月期2Q	22/3月期2Q	前年同期比	
	実績	実績	増減額	増減率
受注高	4,948	6,333	1,384	28.0%
売上高	5,846	5,583	-263	-4.5%
セグメント利益	507	564	56	11.1%
受注残高	5,395	5,385	-9	-0.2%

地域別売上推移

- 日本国内の売上高は、前期の受注高の減少を反映し前年同期比15.9%減
- アジア地域の売上高は、台湾で増加し前年同期比112.3%増

(単位：百万円)

	2021年3月期 2Q			2022年3月期 2Q		
	金額	前年同期比 増減率	構成比	金額	前年同期比 増減率	構成比
日本	18,041	10.4%	85.1%	15,169	-15.9%	70.9%
アジア	2,757	35.6%	13.0%	5,853	112.3%	27.4%
その他	409	13.3%	1.9%	376	-8.1%	1.7%
合計	21,207	13.2%	100.0%	21,399	0.9%	100.0%

連結貸借対照表

■ 買入債務、法人税、未払金等の支払いにより総資産は減少、利益剰余金の計上等により純資産が増加した結果、22/3期2Q末の自己資本比率は54.4% (21/3期末は48.6%)

(単位：百万円)

2021年3月末

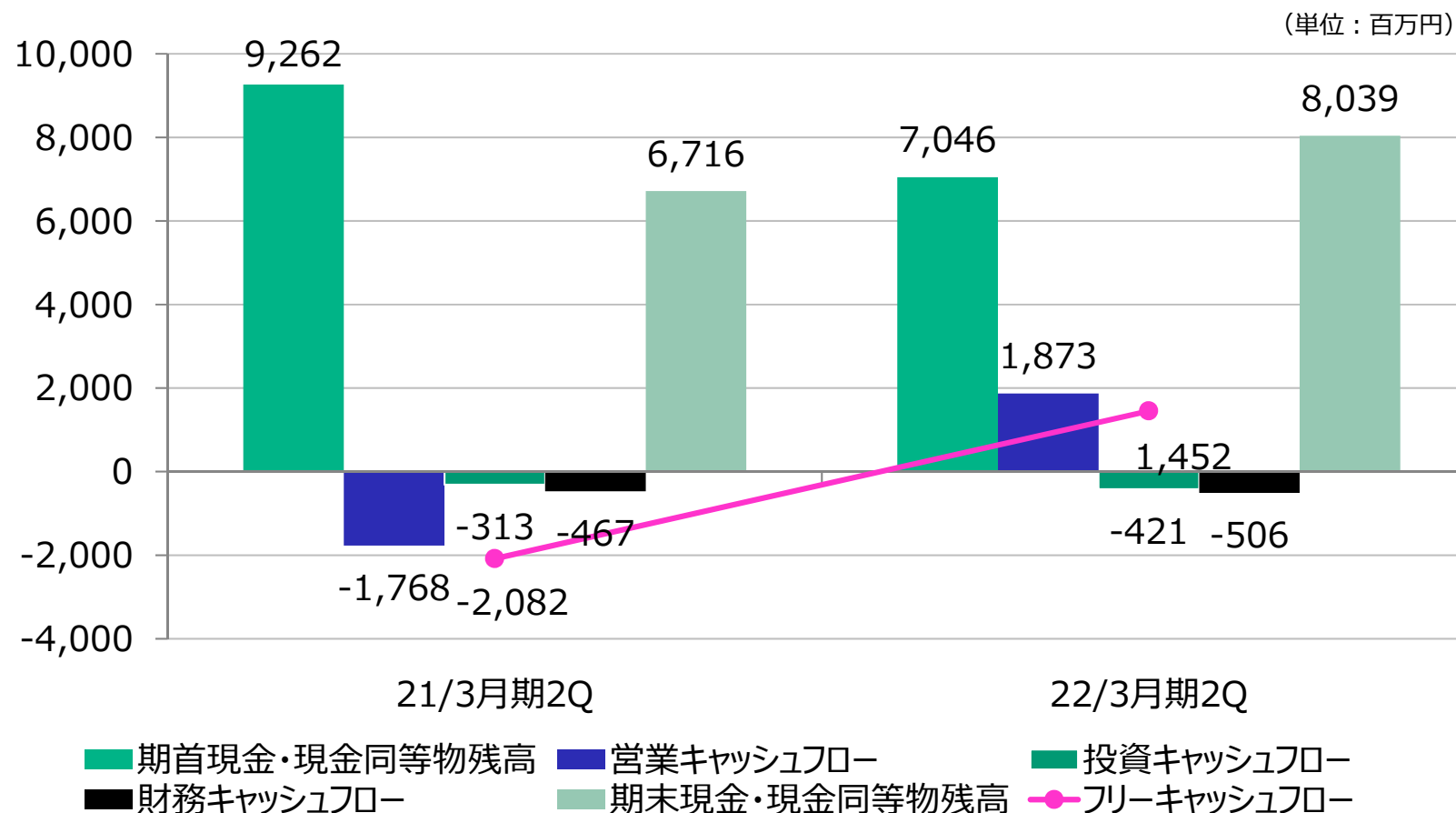
流動資産 36,690		流動負債 17,771	
現金・預金 ▲2,215		買入債務 +1,081	
売上債権 +4,961		未払法人税等 +428	
		1年内返済予定	
		長期借入金 ▲1,400	
		前受金 ▲999	
有形・無形固定資産 5,095		固定負債 8,779	
投資その他の資産 10,051		長期借入金 +1,400	
投資有価証券 +1,180		退職給付に係る負債 ▲1,341	
繰延税金資産 ▲663			
総資産 51,837百万円		純資産 25,286	
		利益剰余金 +2,050	
		有価証券評価差額 +1,233	
		退職給付に係る調整累計額 +691	

2021年9月末

流動資産 32,623		流動負債 14,207	
現金・預金 +992		買入債務 ▲2,554	
売上債権 ▲5,259		1年内返済予定	
仕掛品 +521		長期借入金 +1,000	
		未払法人税等 ▲650	
有形・無形固定資産 4,998		固定負債 7,579	
投資その他の資産 10,226		長期借入金 ▲1,000	
総資産 47,848百万円		純資産 26,061	
		利益剰余金 +632	

連結キャッシュ・フロー計算書

■ 投資キャッシュフローは減少したが、営業キャッシュフローの増加により、フリーキャッシュフローは増加



Ⅲ.業績予想

2022年3月期連結業績予想

- 売上高は、単体機械事業で期初計画を上回り465億円を見込む
- 営業利益は、上期の業績と売上高の増加を反映して期初計画を上方修正^{*1}し23億円を確保

(単位：百万円)

	21/3月期		22/3月期2Q		22/3月期		前年同期比	
	実績	構成比	実績	構成比	予想	構成比	増減額	増減率
売上高	48,753	-	21,399	-	46,500	-	-2,253	-4.6%
売上原価	40,734	83.6%	17,351	81.1%	-	-	-	-
販売費及び一般管理費	5,274	10.8%	2,680	12.5%	-	-	-	-
営業利益	2,745	5.6%	1,367	6.4%	2,300	4.9%	-445	-16.2%
経常利益	2,939	6.0%	1,507	7.0%	2,350	5.1%	-589	-20.1%
親会社株主に帰属する 純利益	2,511	5.2%	1,173	5.5%	1,750	3.8%	-761	-30.3%
1株当たり純利益	331.01 円	-	154.43 円	-	230.35 円	-	-	-

*1：2021年10月29日付で東京証券取引所に開示した「2022年3月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」参照

セグメント別業績予想

① エンジニアリング事業

- 受注高は、国内外化学関連プラントの回復を受け前年同期比36.1%増
- 売上高は、前期の受注高の減少を受け前年同期比6.2%減
- セグメント利益は、原価率の改善を見込むが、売上高の減少に加え販売費及び一般管理費の増加を見込み前年同期比20.1%減

(単位：百万円)

	21/3月期	22/3月期2Q	22/3月期	前年同期比	
	実績	実績	予想	増減額	増減率
受注高	21,309	14,860	29,000	7,690	36.1%
売上高	36,796	15,816	34,500	-2,296	-6.2%
セグメント利益	1,877	803	1,500	-377	-20.1%
受注残高	36,005	35,048	30,505	-5,500	-15.3%

セグメント別業績予想

② 単体機械事業

- 売上高は、期初は前年同期比で減少を見込んでいたが、当期の受注高の増加を見込み前年同期比0.4%増
- セグメント利益は、売上高は増加を見込むが、販売費及び一般管理費の増加により前年同期比7.8%減

(単位：百万円)

	21/3月期	22/3月期2Q	22/3月期	前年同期比	
	実績	実績	予想	増減額	増減率
受注高	10,299	6,333	12,000	1,700	16.5%
売上高	11,957	5,583	12,000	42	0.4%
セグメント利益	867	564	800	-67	-7.8%
受注残高	4,635	5,385	4,635	-	-%

2022年3月期予想

配当方針

当社は、株主各位に対する利益還元を最重要政策としており、そのため長期にわたる安定的な経営基盤と内部留保の充実をはかりつつ、成果の配分を行うことを配当政策の基本としております

	2Q末	4Q末	合計	配当性向
2022年3月期配当予想	0円00銭	60円00銭	60円00銭	—
(ご参考) 2021年3月期	0円00銭	70円00銭	70円00銭	21.1%

IV.中期経営計画 ～取り組み状況～

次世代成長分野への投資を着実に推進

● クリーンエネルギー関連領域 水素製造関連技術の拡充・強化



● バイオガス利活用領域 再生可能エネルギー関連技術の強化



● 船舶環境規制領域 船舶環境規制対応機器の基盤技術の強化と 製品ラインアップの充実



当社グループは2020年4月より、SDGsの目標に向けた活動を進めています
事業活動を通じて、持続可能な社会実現を目指して貢献して参ります

水素製造関連技術の拡充・強化



■ 水素製造装置HyGeiaシリーズの出荷は半導体業界を中心に底固く推移

【出荷実績内訳】

向け先	20/3月期	21/3月期	22/3月期2Q	22/3月期 ()は通期予定
工業用	8基	2基	2基	(3基)
水素ステーション用	3基	3基	2基	(2基)



豊洲水素ステーション



HyGeia-A

■ 東京オリンピックの燃料電池バス用水素ステーションに水素製造装置を納入

(注)本資料内の下線のある用語は別紙「2022年3月期第2四半期決算説明会 ご参考資料 用語集」掲載用語を示します

水素サプライチェーンへの取り組み

- 千代田化工建設と協力してSPERA水素[®]型水素ステーション用脱水素パッケージの設計・製作を実施（NEDO助成事業/受託者：千代田化工建設）

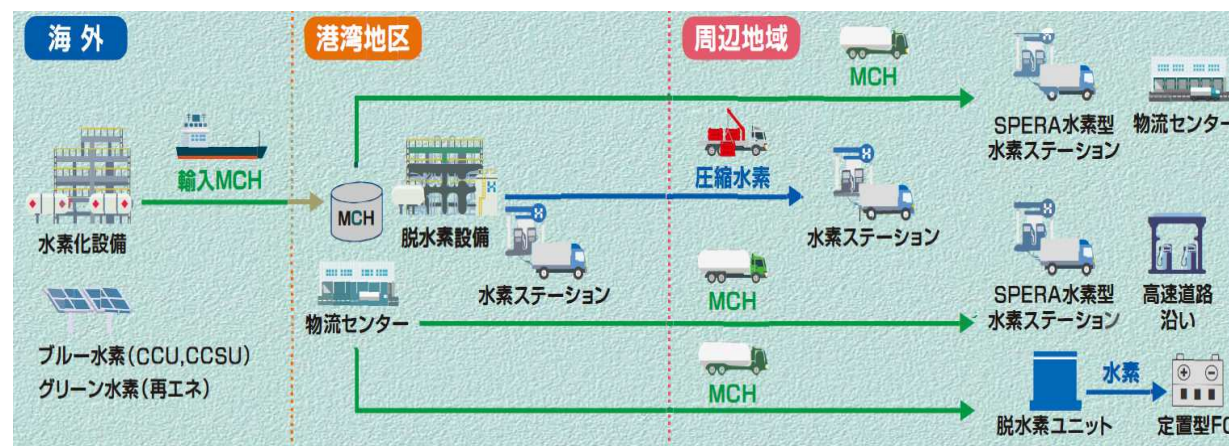


SPERA水素型水素ステーション用脱水素パッケージの特長

- ・ 脱水素装置、圧縮機、水素精製装置、用役設備など設備をスキッド化し、低コスト化
- ・ 千代田化工建設にて、実証運転の結果、FCV用水素規格に適合することを確認



SPERA水素型水素ステーション用
脱水素パッケージ(小型実証機の外観写真)
提供:千代田化工建設



SPERA水素によるサプライチェーンのイメージ

- 公表した技術導入ガイドラインと蓄積データをもとに各自治体へのPR及びFS協力を実施し、実装置としての汚泥可溶化装置を10月に初受注
- 今後も他の自治体へのPR活動、FS協力を行い更なる受注獲得を目指す



下水処理場を中心とした、再生可能エネルギーネットワークの構築

唐津市B-DASHプロジェクトの取組

2018年度 国交省B-DASHプロジェクトに採択

2020年度 実証試験完了。普及展開を図るための技術導入ガイドライン公表

2021年度 ・自主研究運転を継続しデータ蓄積
・各自治体へPR活動、FS協力実施

2021年度
(10月) 実装置としての汚泥可溶化装置
初受注

汚泥可溶化装置の初受注案件概要

【工事名】 唐津市浄水センター消化槽
改修機械設備工事

【工期】 2021年11月～2023年3月

【受注者】 三菱化工機・創建共同企業体

【工事内容】 汚泥可溶化装置を含む消化槽機械
設備工事 一式 等

唐津市浄水センターは、本装置設置により受入
汚泥の全量を当社の汚泥可溶化装置を含む消
化設備で処理することになります

**汚泥可溶化装置
導入効果**

- ✓ 下水汚泥の減容化
- ✓ バイオガスの増量



B-DASHプロジェクト
(汚泥可溶化装置と無動力消化槽)

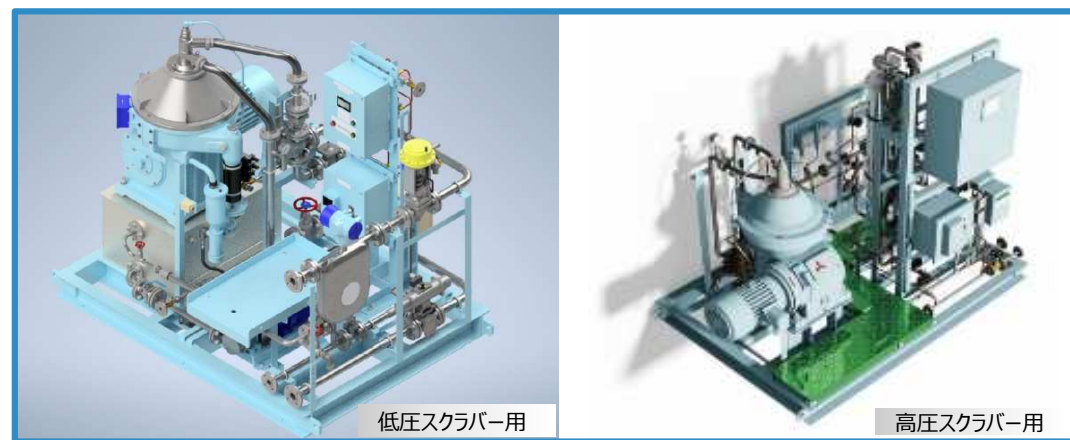


■ 船舶環境規制対応機器の市場環境と当社の主な取り組み状況

対応規制	製 品	市場環境	取り組み状況
<u>SOx規制</u>	<u>三菱SOxスクラバー</u>	・脱炭素に向けた新燃料船の開発検討が活発化 ・各船主はスクラバーの採用に足踏み状態が継続	①コスト競争力の強化 ②搭載需要の調査と引合入手 ③国内船主／造船所への販売
<u>NOx規制</u>	<u>EGRエンジンシステム用排水処理装置</u>	3次規制により、 <u>ECA</u> 海域を航行する船舶向けの需要が堅調	①LNG/LPG等新燃料への対応



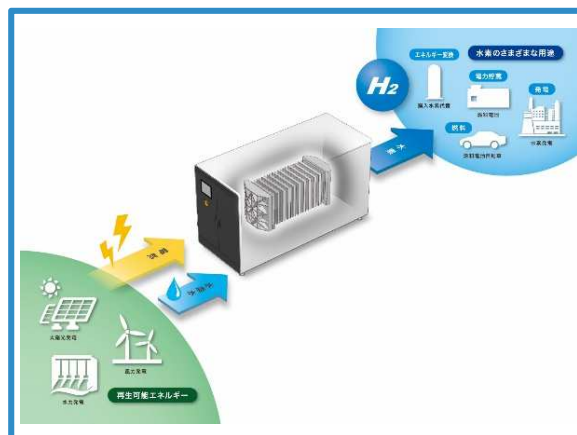
三菱SOxスクラバー



NOx規制対応EGRエンジンシステム用排水処理装置

その他の取り組み状況

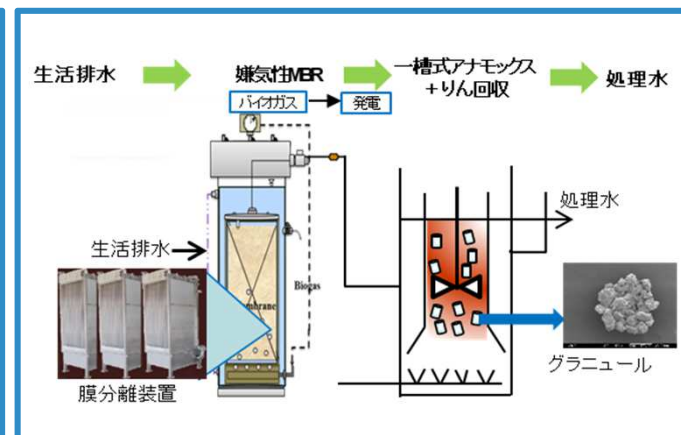
領域	主な実績	取り組み状況
● クリーンエネルギー領域 再エネ電解水素の環境省 実証事業	水電解水素製造装置の実証試験完了 安定して水素を製造できることを確認した	水電解水素製造装置を用いたグリーン水 素供給モデル構築のFS等の検討を実施中
● クリーンエネルギー領域 <u>吸蔵合金水素圧縮機</u> の開発	<u>吸蔵合金水素圧縮機</u> （実証機）を設計・製作 試験運転により、計画の1MPaG未満の低圧水素を 19.6MPaGまで昇圧、吐出流量1Nm ³ /hを実現	吸蔵合金水素圧縮機運転に必要なとなるエ ネルギー削減検討等を実施中
● バイogas利活用領域 革新的な省エネ・創エネ 生活排水処理システムの開発	<u>リン除去・回収技術</u> を組み込んだ新システムの実証 運転完了	民間排水処理分野も視野に早期市場投 入を図る



再エネ電解水素の環境省実証事業



吸蔵合金水素圧縮機

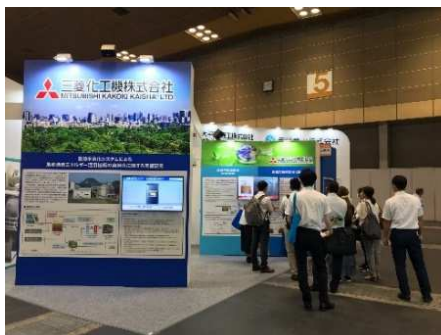


革新的な省エネ・創エネ生活排水処理システムの開発

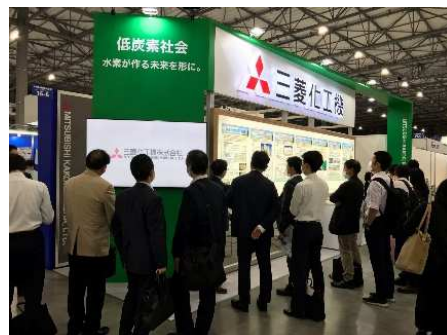
プロモーション（展示会・広告）

【展示会】製品・技術のPRの場として展示会に出展

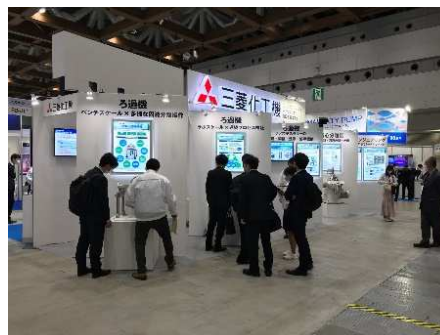
出展展示会：下水道展（環境）水素・燃料電池展-秋-（水素）
（予定含む）INCHEM TOKYO（プラント・単体機械）川崎国際環境技術展（環境・ウェブ開催）
インターフェックス ジャパン（医薬品）マリンテックチャイナ（上海・船用）
nano tech（単体機械）InterAqua（環境）水素・燃料電池展（水素）



下水道展'21大阪



水素・燃料電池展-秋-



INCHEM TOKYO 2021

【展示会出展について】

緊急事態宣言の解除後は、来場者も多く、展示会会場は盛況
国内の展示会においては、コロナ前と同レベルの人出が戻ってきており、当社も積極的なPR活動を展開

【広告看板】空港等の公共性の高い場所への広告看板の設置

- 羽田空港第1ターミナル（国内線）
- 羽田空港第3ターミナル（国際線）
- 京急電鉄 ドア窓ステッカー
- 川崎地下街アゼリア

【オフィシャルサポーター】

川崎市に本社を置く企業として、地元多摩川の水辺を再現し、かつ公共性の高い水族館（カワスイ）へ協賛することで地域へ貢献（2020年7月オープン）

その他事業活動

- 本社事務所を開設（2021年11月）
- 本社機能移転（2021年11月～2022年1月）

本社機能移転の目的

- 分散拠点を集約することによる業務効率化、管理体制強化及び人材登用強化等を図るため

【本社事務所 所在地】

神奈川県川崎市幸区堀川町580番地ソリッドスクエア東館



- 台湾支店を開設（2021年11月1日）

台湾支店開設の目的

- 半導体生産において世界的に大きなシェアを持ち、設備投資が活発な台湾での受注拡大を目指し、台湾支店開設
現地スタッフの活用により多様化する依頼案件に対応し、更なる顧客層の拡大を図る

【台湾支店 所在地】

台北市松山區民生東路三段128號3樓



V.三菱化工機グループ 2050経営ビジョン

三菱化工機グループ2050経営ビジョン(概要)

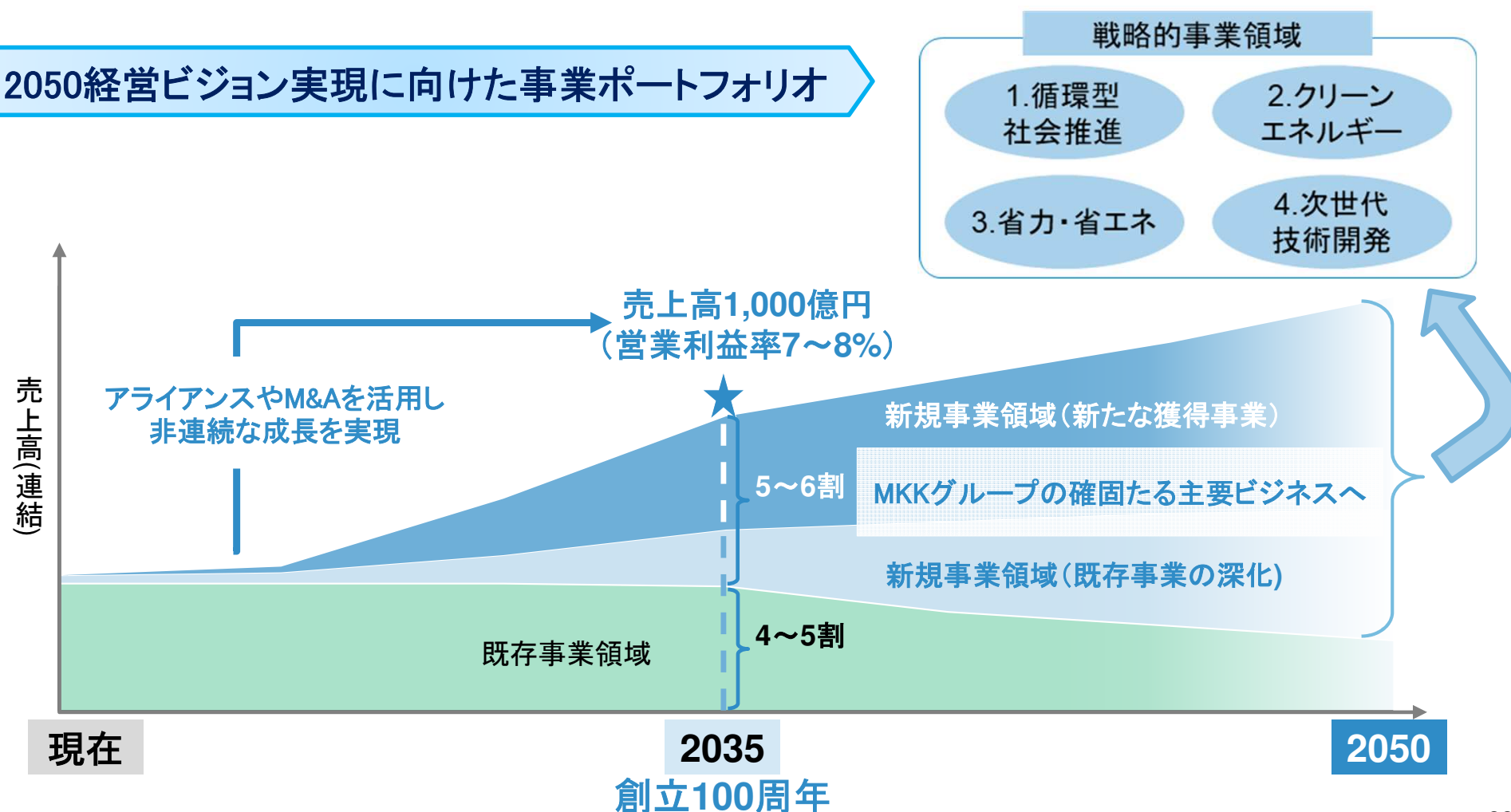
- 脱炭素化推進への貢献やSDGsの取り組みを含めた社会課題への対応の重要性が高まっていることを踏まえて、ビジョン・ステートメントを定め「三菱化工機グループ2050経営ビジョン」を策定
- MKKグループの持つ普遍的な強みを活かせる「5つの社会課題」を抽出し、それに対応する為の「4つの戦略的事業領域」を設定



事業ポートフォリオと数値目標

- 2035年に、戦略的事業領域で売上高約5割を目指す
MKKグループ連結売上高1000億円を目指す
- 2050年は、戦略的事業領域の売上高比率をさらに高める

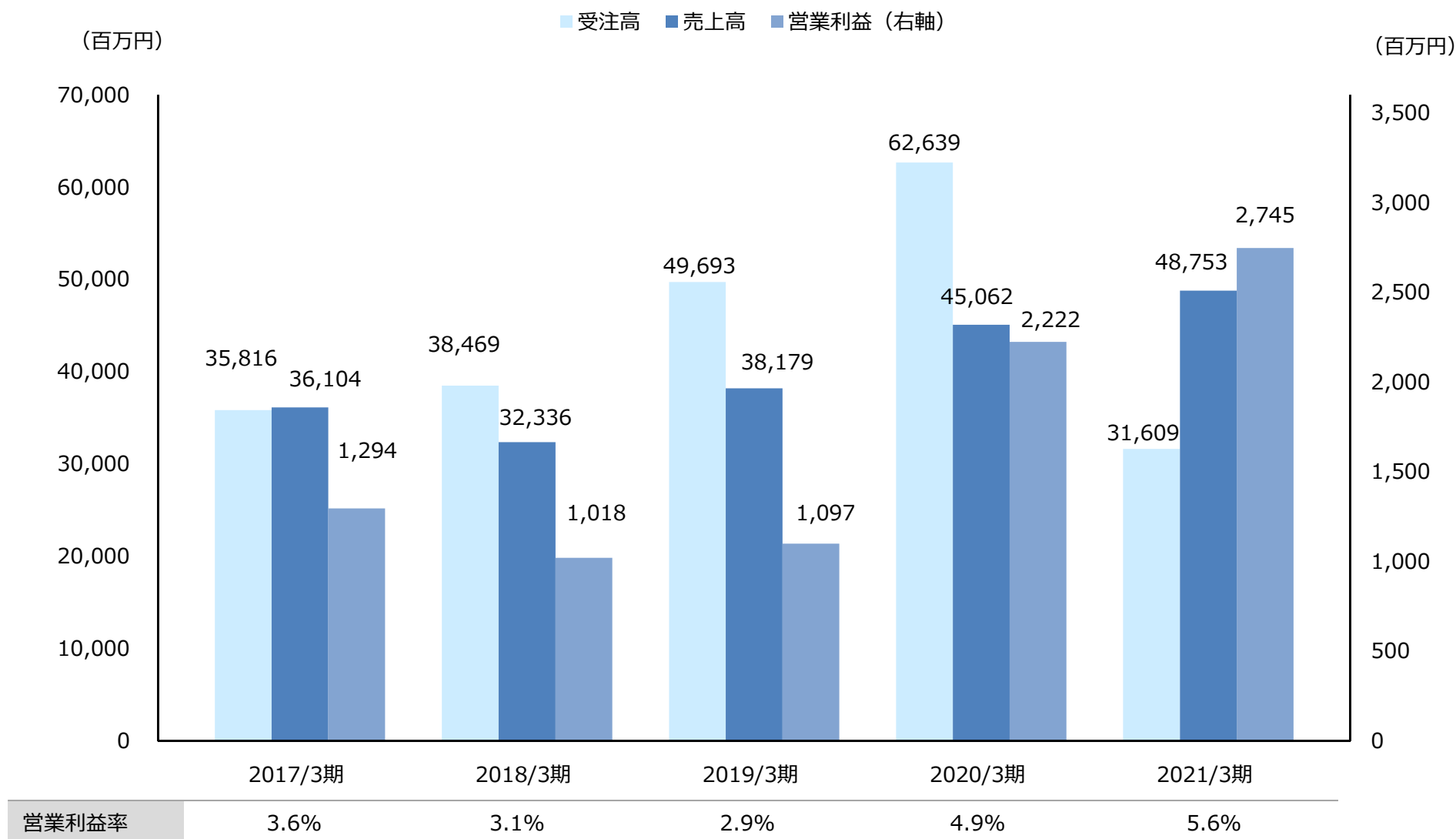
2050経営ビジョン実現に向けた事業ポートフォリオ



Appendix1.過去5年間の業績推移

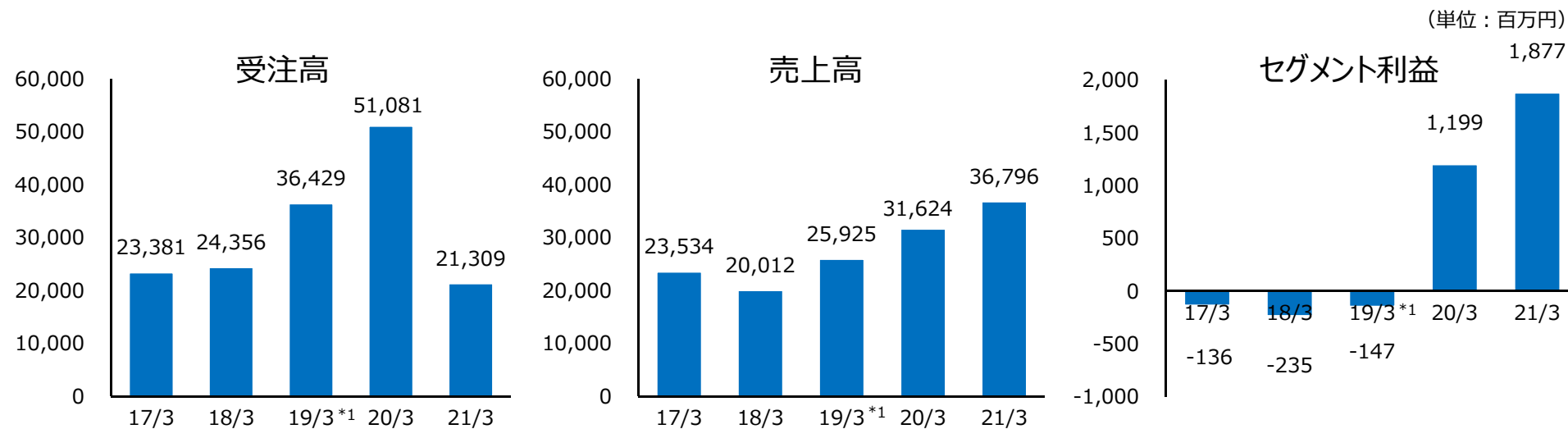
業績の推移

連結業績の推移（直近5期）

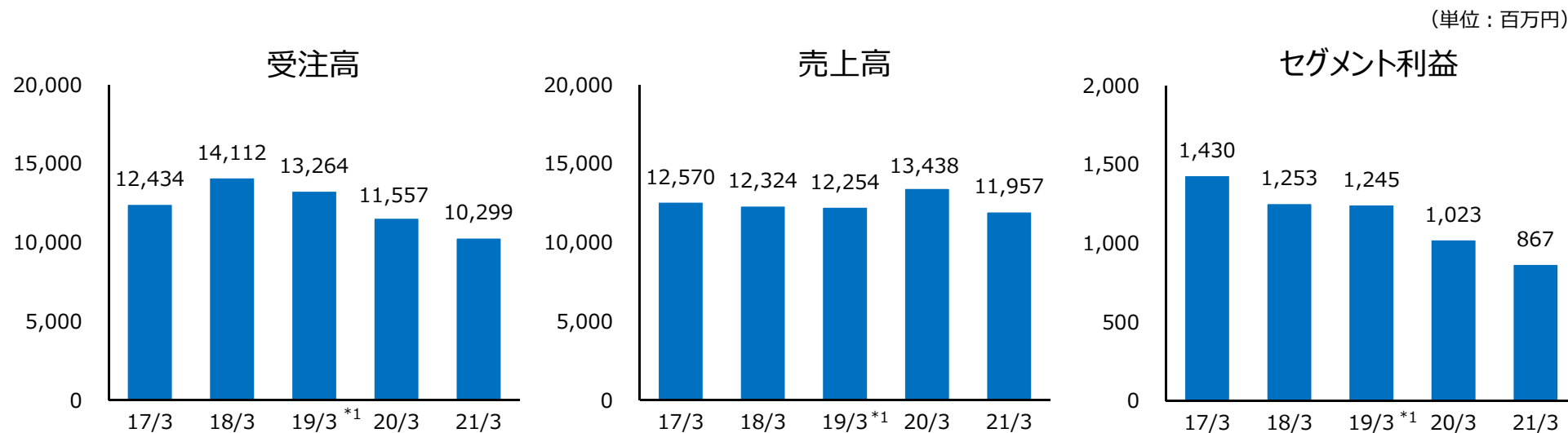


セグメント別の業績推移

①エンジニアリング事業の業績推移(直近5年)



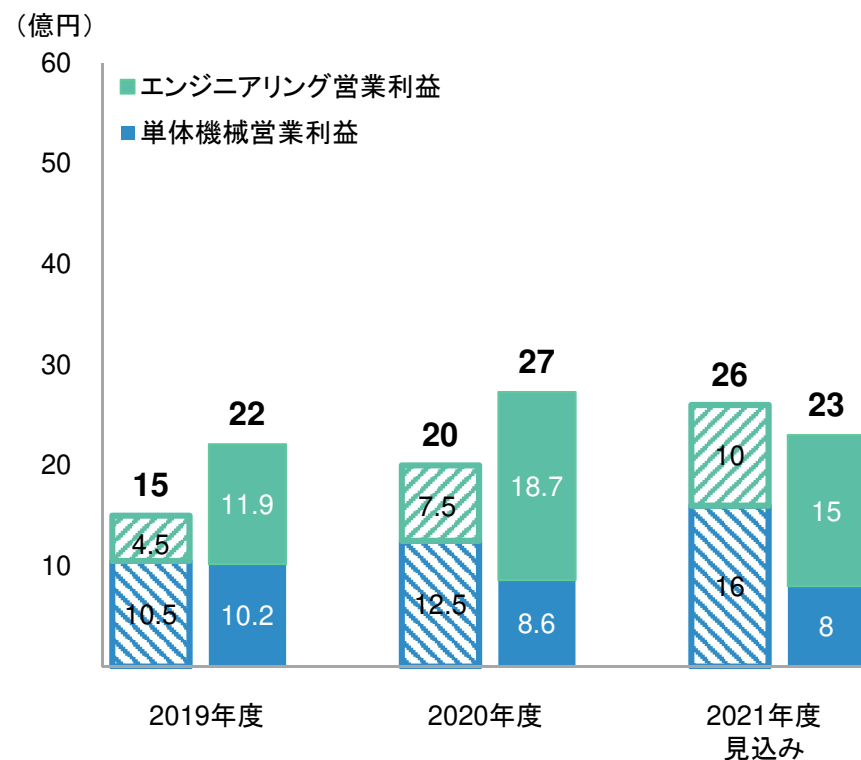
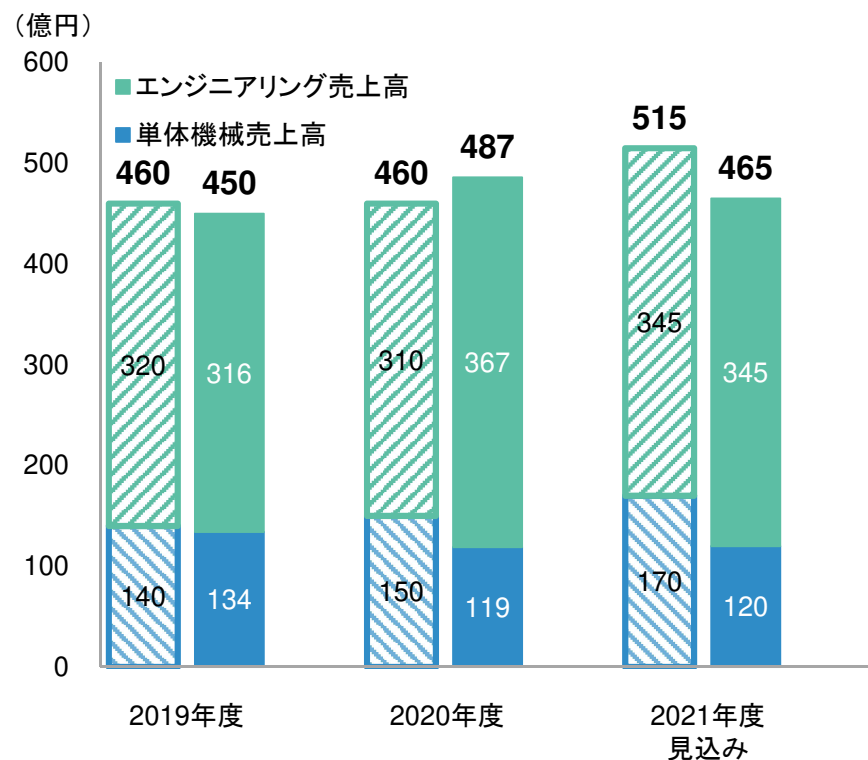
②単体機械事業の業績推移(直近5年)



*1：2019/3期について、2019年4月1日付で実施したグループ内組織再編に伴うエンジニアリング事業と単体機械事業の数値の組替を行っております

(参考)中期経営計画

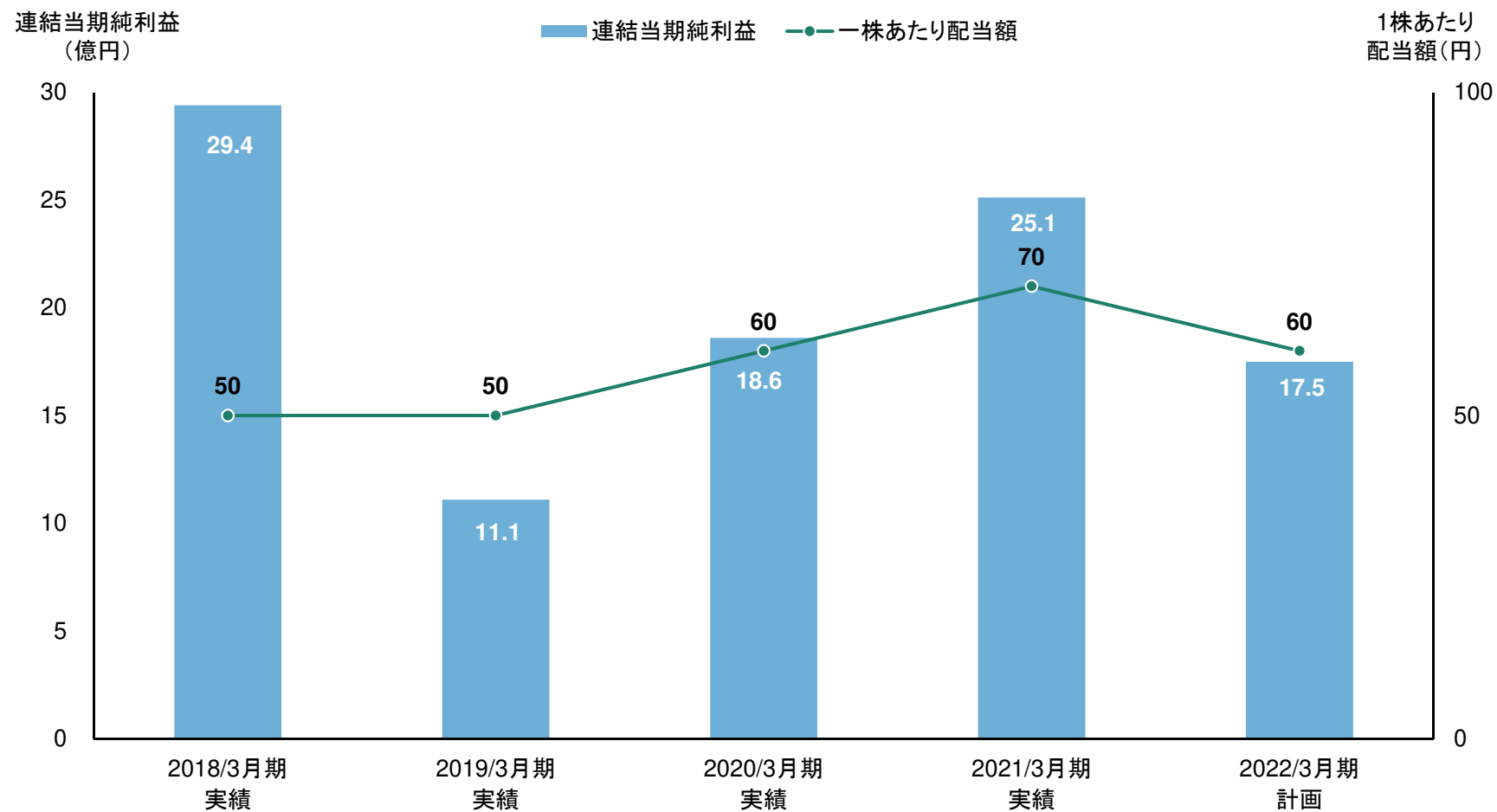
売上・営業利益計画



営業利益率	2019年度	2020年度	2021年度
計画	3.3%	4.3%	5.0%
実績・見込み	4.9%	5.6%	4.9%

注: 実績値及び見込み値は、2019年4月1日付で実施したグループ内組織再編後の区分によって作成しております
計画値は、中計策定時の再編前におけるセグメント区分の数値です

(参考)配当推移



配当総額	3.95億円	3.95億円	4.61億円	5.37億円	—
配当性向	13.4%	35.4%	25.2%	21.1%	—

Appendix2.会社概要

会社概要・沿革

会社概要（2021年3月31日時点）

商号	三菱化工機株式会社 (Mitsubishi Kakoki Kaisha, Ltd.)
本社	神奈川県川崎市川崎区大川町2番1号
設立	1949年9月（創立1935年5月）
資本金	39億5697万5千円
発行済株式数	7,913,950株
連結従業員数	887名
事業内容	各種プラント・環境設備及び各種単体機械等の設計、製作、据付、販売

沿革

1935	三菱各社の出資により化学工業用機械国産化のために化工機製作（株）として創立
1958	大阪営業所を開設（現、大阪支社）
1961	四日市製作所を開設
1970	鹿島工場を開設
1972	株式会社化工機環境サービスを設立
1978	化工機商事株式会社を設立
1995	オランダ王国・アムステルダム市に当社、三菱商事（株）の共同出資による合弁会社MKK EUROPE B.V.を設立
1999	子会社を再編（技術関連3社は化工機プラント環境エンジニアリング（株）（KPEC）に、厚生・サービス関連2社は化工機商事（株）に合併・再編）
2008	中華人民共和国・上海市に当社100%出資による菱化貿易（上海）有限公司を設立
2009	鹿島工場の第二製缶工場が竣工
2010	タイ王国・バンコク市に現地法人MKK Asia Co., Ltd.を設立
2012	川崎製作所に油清浄機生産工場が竣工
2016	監査等委員会設置会社へ移行
2018	MKK EUROPE B.V.の株式追加取得による連結子会社化
2019	工場・子会社を再編（菱化製作所をKPECへ吸収合併、四日市/鹿島工場の工事等機能をKPECへ吸収分割）（新会社設立2019年4月1日） 菱化貿易（上海）有限公司を菱化機械技術（上海）有限公司へ商号変更
2020	化工機プラント環境エンジニアリング（株）への株式割当増資を行い、同社を三菱化工機アドバンス（株）へ商号変更（2020年11月1日）
2021	台湾支店を開設 川崎市幸区に本社事務所を開設し、本社機能に移転

事業所一覧

(2021年12月7日時点)

国内拠点



海外拠点



本社	● 本社 ● 本社事務所/川崎工場内 ● 本社・営業事務所	工場	● 川崎製作所 ● 四日市工場 ● 鹿島工場 ● 三菱化工機アドバンス北九州工場	グループ会社	● 三菱化工機アドバンス株式会社 ● 化工機商事株式会社 ● MKK Asia Co., Ltd. (タイ) ● MKK EUROPE B.V. (オランダ)
支社・支店	○ 大阪支社 ○ 九州支店 ○ 沖縄支店	海外事務所	● 台湾支店 ● マレーシア営業所 ● インドネシア駐在員事務所	連結子会社	
営業所	○ 営業所 (東北、横浜、名古屋、広島)			非連結子会社	● 菱化機械技術 (上海) 有限公司 (中国)

製品紹介 エンジニアリング事業 プラント事業

■ HyGeia-A (ハイジェイア-A)
小型オンサイト水素製造装置



■ MKK川崎水素ステーション



■ 大型水素製造装置



■ Hy-Regulus (ハイレグラス)
水素ステーション充填パッケージ



■ 液ガス熱調設備



■ LNG気化器
(中間熱媒体式：OG-TRI-EX)



■ LNG (液化天然ガス) サテライト設備



■ 超低温合成反応装置



製品紹介 エンジニアリング事業 環境事業

■ 高効率熱可溶化消化装置



■ 無動力消化槽



■ 生物脱臭プロセス（充填式生物脱臭法）



■ 超高速沈殿装置



■ 膜分離活性汚泥法



■ バイオガスシステム



■ 超微細気泡散気装置（FlexAir™ MiniPanel）



■ 消化槽の熱回収（ヒートポンプ）



製品紹介 単体機械事業

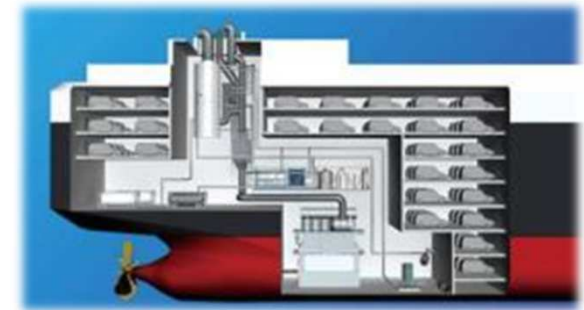
■ 三菱セルフジェクター SJ-Hシリーズ



■ NOx規制対応
EGRエンジンシステム用排水処理装置



■ 三菱SOx スクラバーシステム



■ 三菱ドラムフィルター



■ 三菱除塵装置（スクリーン）



■ 三菱-KM GMP対応横型
ピーラー遠心分離機（HZ-PhII）



■ 三菱シュナイダーフィルター

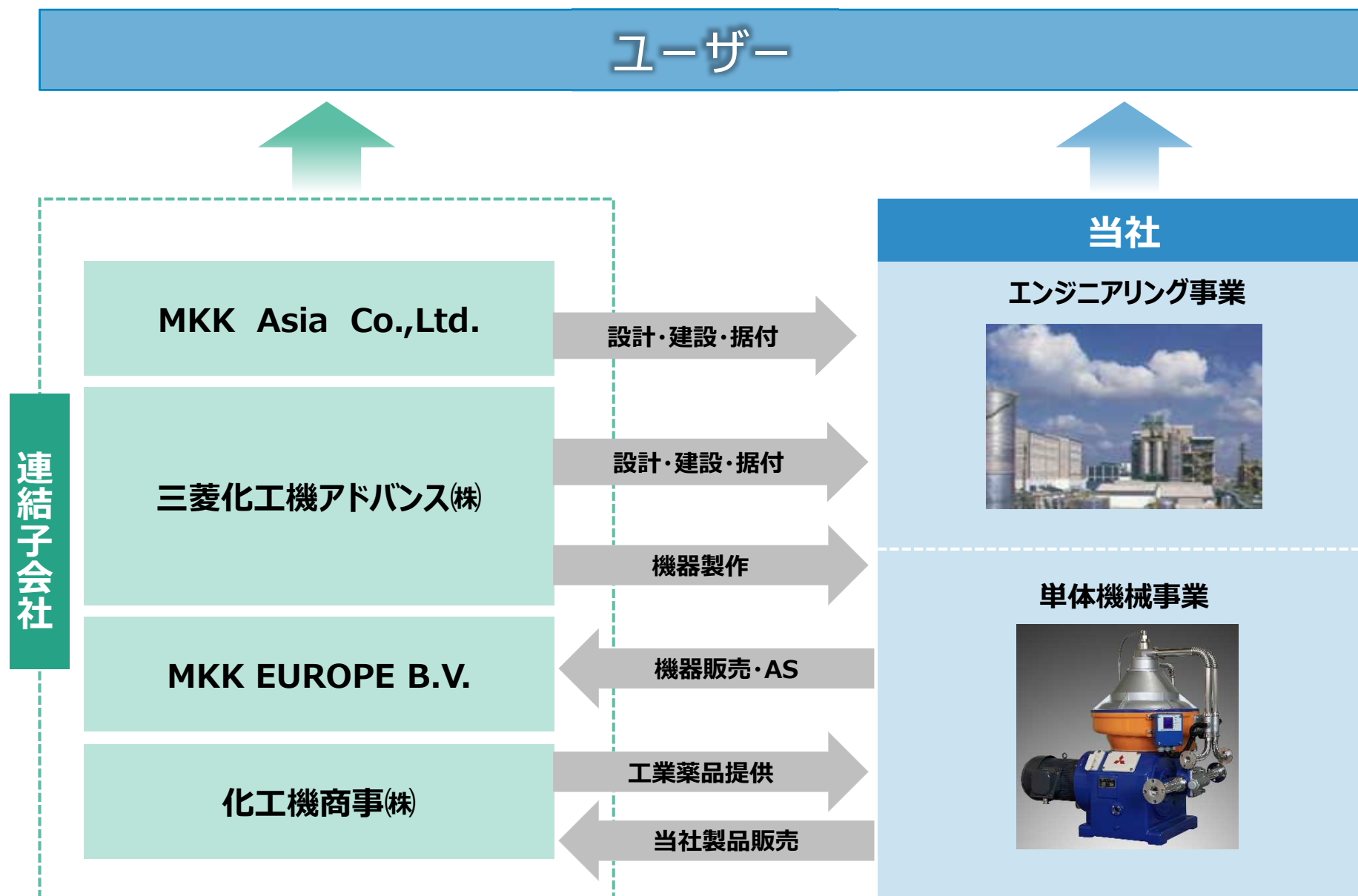


■ 三菱ダイナフィルター（DyF312シリーズ）



■ ヌッチェフィルター





コア技術

■ プラント技術

- ・ 水素製造技術、エネルギー関連技術

■ 環境技術

- ・ 下水バイオガス関連技術、排水処理プロセス

■ 機械技術

- ・ 遠心分離技術、ろ過技術、船舶環境規制対応技術

応用試験研究

■ 応用試験

- ・ 分離・分級適用試験と評価

■ 材料技術

- ・ 材料試験と評価、設備診断

トピックス

「藻類」培養による研究開発事業

1993年度

■ クロレラ製造設備の建設

- ・ インドネシアにてクロレラの培養に関する設備建設

2013年度～2018年度

■ 藻類バイオジェット燃料について、福島復興事業他による研究プロジェクトへ参加

- ・ 栄養素を多量に含む下水を利用し「藻類」培養を行うと同時に下水を浄化処理する技術確立
- ・ 当社の遠心分離機にて濃縮

2020年度

■ 藻類培養研究施設の実証開始

- ・ 都市型藻類バイオマス生産用フォトバイリアクターの実証試験を開始



川崎製作所に研究施設建設

2021年度

■ ヌツチェフィルター型抽出装置

- ・ NEDO「バイオジェット燃料生産技術開発事業」再委託研究でヌツチェフィルター型抽出装置受注



Appendix3.ESGマネジメント SDGsの取り組み

ESGマネジメント SDGsの取り組み

- 三菱化工機グループではSDGsの13のゴールに向けて 5つの取り組みテーマをリンクして推進しています
- 2021年10月神奈川県グリーンボンドへ投資
本債券をはじめとしたSDGs債への投資を継続的に実施することによって、持続可能な社会の実現に貢献

重点取組テーマ		1 NO POVERTY	4 QUALITY EDUCATION	5 GENDER EQUALITY	6 CLEAN WATER AND SANITATION	7 AFFORDABLE AND CLEAN ENERGY	8 DECENT WORK AND ECONOMIC GROWTH	9 INDUSTRY, INNOVATION AND INFRASTRUCTURE	10 REDUCED INEQUALITIES	11 SUSTAINABLE CITIES AND COMMUNITIES	12 RESPONSIBLE CONSUMPTION AND PRODUCTION	13 CLIMATE ACTION	14 LIFE BELOW WATER	17 PARTNERSHIPS FOR THE GOALS
1	クリーンエネルギー技術の強化					●		●		●	●	●		
	CO ₂ フリー水素製造関連技術の拡充・強化					●		●		●	●	●		
	再生可能エネルギー関連技術の強化				●	●		●		●	●	●		
2	環境負荷低減													
	船舶環境規制対応機器の基盤技術の強化と製品ラインアップの充実					●		●				●	●	
	省エネ・創エネ排水処理システムの技術開発				●	●		●		●	●	●	●	
	その他省エネルギー機器の開発及び普及展開				●	●		●		●	●	●		
3	持続可能な事業活動と生産活動													
	工場生産でのエネルギー効率と再生可能エネルギー利用率の向上					●						●		
	原材料、その他投入物の環境負荷低減、廃棄物の削減										●			
4	次世代育成と働き方改革													
	次世代経営人材の育成と全従業員のエンプロイアビリティの向上						●							●
	ダイバーシティの推進			●			●							●
	働き方改革の推進			●			●							●
5	グローバルに事業活動を推進													
	海外拠点の充実とアライアンスの推進	●	●				●	●	●		●			●
	強靱なインフラ構築	●	●				●	●	●					●
	現地採用を進め地域に根差した活動を推進	●	●				●	●	●		●			●

Appendix4. 中期経営計画の概要 (2019年度～2021年度)

『挑戦と躍進』

*Realization of “ABC for the Future”
Realize the real Action*

(中計骨子と基本方針)

成長への盤石な経営基盤の構築

営業力・技術力・収益力の強化で、市場環境の変化に即応し営業利益を確保

1

差別化技術を持つ
成長事業中心の
企業体への変革

1. リスクの大きな事業を抑え、安定的な利益を確保できる
ビジネスモデルへ転換
2. 市場環境の変化に即応したリソースの機動的配置による
事業構造の改革
3. 新たな重点開発領域の発掘と挑戦

2

利益指標を最重視し、
安定的高収益体制の構築

1. 売上規模拡大に偏重せず、獲得利益を基に
受注・事業・経営判断を実施することを徹底
2. 営業利益率に加えROEの目標値を導入、資本効率の向上で
市場評価を高める

3

グループ経営促進による
連結収益力の向上

1. 本体と子会社との事業連携を強化し、グループでの効果的
なバリューチェーンを構築
2. 本体と子会社との連携強化によるリソースの有効活用

中計の骨子 次世代成長分野への投資

- 前中計から継続し、クリーンエネルギー関連・バイオガス利活用・船舶環境規制の3領域に次世代成長分野として投資

重点開発領域

クリーンエネルギー関連領域



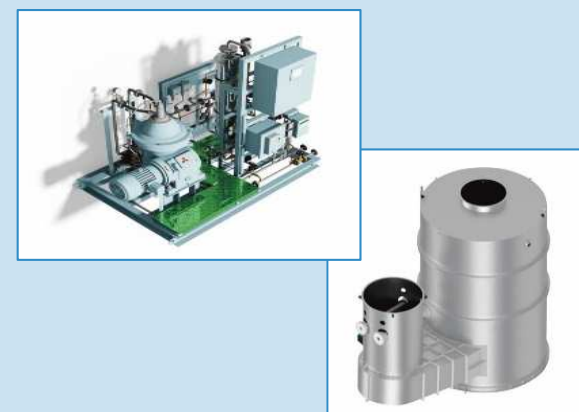
高性能小型オンサイト水素製造装置
(HyGeia-A) と水素ステーション

バイオガス利活用領域



下水バイオガス原料による水素等創エネ技術
(国交省B-DASHプロジェクト唐津市実証設備)

船舶環境規制領域



NOx TierⅢ対応 EGR用排水処理装置と
SOx排出規制対応排ガス洗浄システム
(三菱SOxスクラバー)

- 成長への盤石な経営基盤の構築に向けて、競争力の強化、新製品開発・販売の強化、顧客との関係強化・拡大を全社の基本方針とする

競争力の強化

1. 差別化技術の深化・創出
2. 全ての製品でコストダウンを推進
3. 製品品質の向上で品質コストを削減
4. 見積設計費の削減と見積作業効率化の推進
5. 業務効率化、無駄の排除による管理費用の削減

新製品開発・ 販売の強化

1. 新規開発テーマの探索強化と開発期間の短縮
2. 開発テーマの進捗フォローを徹底、開発継続・中止の厳格化
3. 新製品市場投入後の販売徹底フォロー

顧客との 関係強化・拡大

1. 経営・営業・技術一丸となった活動で顧客との関係強化
2. セグメント間のコラボレーションによる新規顧客開拓の推進
3. 納入後の顧客ケア（AS活動）の徹底による強い信頼関係の構築
4. MKKグループ一体となったトータルサービスの提供

モノづくりとエンジニアリングで明日を創造する 企業グループを目指して

IRに関するお問い合わせ先

三菱化工機株式会社 企画部

.....
電話：044-333-5354

本資料に関する注意事項

本資料に掲載の企業、団体等の名称については、敬称を略して掲載しております。

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成していますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。

